

第5回専門職大学基本計画検討委員会の開催結果について

1 日 時 令和4年5月25日（水） 14:00～16:30

2 委員会出席者

- 会長 生源寺眞一（福島大学食農学類長）
- 委員

芦谷竜矢（山形大学農学部教授）、今井敏（（独）農林漁業信用基金理事長）、牛尾陽子（東北大学監事）、小沢互（山形大学農学部教授）、神山修（山形県専門職大学整備推進監）、北柴大泰（東北大学農学部教授）、柴田晋吾（山形県農林水産部参事）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、村松真（山形大学地域教育文化学部准教授）、五十嵐一雄（山形県認定農業者協議会会長）、八鍬良則（（株）ムラサキ農産代表取締役）、阿部多喜子（金山町森林組合森林施業プランナー）、遠田勝久（（有）遠田林産代表取締役）、阿部清（（公財）やまがた農業支援センター副理事長）、後藤雅喜（山形県農業協同組合中央会常務理事）、菊地繁美（山形県立農林大学校長）、吉田直史（山形県教育次長）

3 会議の概要

事務局から「今後のスケジュール」、「第4回委員会後の検討状況」、「3PTの最終報告」及び「基本計画骨子（案）」について資料により説明の上、意見交換を行った。

【主な意見】

○ 教育課程について

- ・農林業分野でICTの活用は避けて通れない。シラバスにICTを活用した農林業経営を行うことを記載すると分かりやすく、大学の魅力にもなる。
- ・先進的な機械を使いこなし、従業員が休暇を取っても農作業がまわるような組織を作れ、全国的も国際的にも肩を並べられるような農林業経営者が育成できる専門職大学となるよう期待する。
- ・ICT林業等、学生が諸外国の学生に負けない感覚を身につけるために、リモート授業等で海外の学生とコミュニケーションを取る機会を設け、欧州のフォレスターに相当する、またはそれ以上の学生を育てていただきたい。
- ・臨地実務実習の受入れ先として、しっかりと協力し、学生に教えていきたい。
- ・森林は非常に幅が広く、可能性がある分野であり、山形県はやまがた森林ノミクスを一生懸命取り組んでいるので、人材育成の面から頑張りたい。

○ 入試について

- ・共通テストに「情報」が今後入ってくるが、その扱いをどうするか今後検討して欲しい。高校生には非常に重要である。

○ キャリアサポートセンターについて

- ・就農・就業以外の進路に係る書き込みもあると良い。
- ・新規就農支援、就業支援の工夫が色々とされており、入学してくる学生は明るいビジョンを持って就学ができる。出口が予め準備されていることが明確になっていくと、専門職大学のプレゼンスが全国的にも非常に高まっていく。

○ PR、地域連携について

- ・第1期生としてどのような学生に入学してもらって、その人達が将来どのように活躍するかというのは、専門職大学の将来を占う点において重要。文部科学省への認可申請後は入学対象者への周知や、開学を迎える大学の準備、地元の受け入れ体制など、開学に向けた準備に大いに力を注いで頂きたい。
- ・まだ専門職大学を知らない人も多いので、地域で盛り上がるようPRや地域連携の検討をよろしく頼む。
- ・保護者や学生に、この専門職大学を卒業したらどういう農業ができるのか、どういう人生の豊かさがあるのかをもっと強調して行かないといけない。山形の専門職大学に入ったらすごい未来が待っているんだというアピールが早めに必要。
- ・学びの内容や、入学する生徒に求めるもの、卒業後の進路などについて、専門職大学と附属となる農林大学校の違いを含め、丁寧に学生や保護者に説明していく必要がある。
- ・専門職大学の強みや特色をいかに表現し、発信していくか、魅力的な特色を固めていくことも極めて大事。

○ 骨子について

- ・基本的な技術や生産管理、経営管理、情報分析といった技術もこの大学に来れば習熟できるというポイントが見えにくい。基本的な力と応用実践力が身に着くということ、設置意義にしっかり記載してはどうか。

○ その他

- ・大学の通信環境のレベルは高くして欲しい。
- ・教員や学生が教育や研究にしっかりと取り組めるように、大学の事務体制や管理運営体制をしっかりと整備して欲しい。
- ・目的がはっきりしている学生ほど、かなり思い悩むということがある。そういう場合のカウンセリングや教職員の対応の仕方もしっかり取り組む必要がある。
- ・高校との連携や、高校での学びとの接続も非常に重要であるので、その仕組み作りも必要である。
- ・学びや施設整備について、附属農林大学校とうまく連携していけるよう、検討して欲しい。
- ・昨今のコロナ渦、国際紛争状況の中、食料安全保障、食料の安定供給等の農業の基本的価値が正当に認識評価される必要がある。これらの価値観は、農業者の持続的な経営があってこそだという国内全体の共通認識のもとで農業に携わる方を育成し、そして経営をして欲しい。

以上